

大豆「東北85号」(準奨励品種)

(農試 技術部 果南分場 果北分場)

1 来歴

大豆「東北85号」は良質な納豆用品種として茨城県で奨励品種になっている「納豆小粒」の早生性と耐倒伏性の改善を目標に、昭和54年東北農試刈和野試験地において「納豆小粒」の気乾種子に γ 線10KRを照射し、以後選抜、固定が図られてきた。昭和61年における世代はM₈である。若手果では昭和58年に果北分場の系統適応性検定試験、昭和59年から本分場において生産力検定試験、昭和59年本場において黒痘病特性検定試験を実施して有望系統であることを確認した。

2 特性の概要

1) 形態的特性

- (1) 茎長は「納豆小粒」より20cm前後短く、普通大豆「ナンプシロメ」より15cm程長い。
- (2) 分枝数は「納豆小粒」よりやや少なく、「ナンプシロメ」より多い傾向である。
- (3) 着莢数は「ナンプシロメ」の2.5倍以上で非常に多く、「納豆小粒」よりやや多めである。

2) 生態的特性

- (1) 「納豆小粒」より開花期で4~7日、成熟期で8~14日それぞれ早い。「ナンプシロメ」並で晩生種に属する。
- (2) 耐倒伏性は「納豆小粒」よりまさるが、「ナンプシロメ」よりやや劣る。
- (3) 子実収量は240~310kg/10aで「納豆小粒」より多収の傾向を示す。
- (4) 病、線虫害抵抗性は、タイズモザイクウイルスに対しては「中」、タイズシストセンチュウに対しては「弱」である。

3) 子実の品質特性

- (1) 子実は「納豆小粒」と同様、球形の白目で百粒重が9~10gの極小粒であり、外観的品質がよい。
- (2) 子実成分は「納豆小粒」と同様、粗蛋白が「中」、粗脂肪が「低」に分類される含有率で、糖含量が高く納豆製造上優れている。

3. 準奨励品種に採用する理由

若手果の大豆作付面積は昭和60年度6,980haで、普通畑の8%、転換畑の11%を占めており、今後も高収益畑作を展開していく中で重要な役割を果たしていくと思われる。同時に大豆自体の生産力向上、低コスト化、高商品化は必要であり、特に商品性の高い納豆用大豆は極小粒種の需要が増大している。しかし、産地が茨城県に限られているため、大豆生産は大きな課題である。県内納豆業者への供給量が少なく、業者からは県内からの生産供給が強く要望されている。

茨城県で栽培の多い「納豆小粒」は萎化倒伏しやすく、成熟期がおそく、本県では果南部に限定される。それに対して「東北85号」は極小粒で品質よく、萎化倒伏程度がかなり改善されている。また成熟期は10月中旬であるため栽培適応地帯を拡大できることから奨励品種に編入する。

4. 適応地域及び作型

標高300m以下の県下全域を適応地域とし、集団栽培を推進し、団地化を図る。

5. 栽培上の留意点

- 1) 県中北部の播種適期は5月中～下旬、県南部では6月上旬であるが、萎化倒伏の軽減策として晩播が有効であり、晩播限界は6月20日である。
- 2) 普通大豆に比較して萎化倒伏しやすいので、栽培密度は10,000～15,000本/10a、チソ施肥量2～3kg/10a基準とし、極端な密植や多肥を避ける。特に肥沃地では減肥が必要である。また県南部における晩播では減収を防ぐため15,000～20,000本/10aの密植とする。
- 3) ダイズモザイクウイルスには「ナンブシロメ」並の抵抗性を有するが、アブラムシ防除や種子更新は従来とおり徹底する。
- 4) ダイズシストセンチュウ抵抗性はないので連作しない。発生圃場では4～5年間は寄生作物の作付をさける。
- 5) 10a当たり所要種子量は標播で1～1.5kg、県南部の晩播で1.5～2kgとする。

6. 試験成績

表-1 本分場における奨励品種決定基本調査 (昭和60～61年平均)

場所	品種名	成熟期 (月・日)	主莖長 (cm)	分枝数 (本/株)	稈莢数 (莢/m ²)	萎化程度	倒伏程度	a子実重 (kg)	同左比 (%)	百粒重 (g)	障害粒程度			品質
											紫斑	褐斑	裂度	
本場	東北85号	10.18	59	6.4	1165	微少	微～中	23.9	115	8.6	無	無～微	無～少	中～上
	納豆小粒	10.28	78	6.6	1472	中～多	多	20.7	100	9.3	無	微～中	無～微	下～中
県南分場	東北85号	10.14	120	7.2	1617	微少	中～甚	31.6	92	10.6	無	無～甚	無～微	中～上
	納豆小粒	10.28	137	8.4	1757	微～中	中～甚	34.5	100	10.7	無	無～甚	無～微	中～上
県北分場	東北85号	10.28	91	11.5	1652	無～少	少～多	27.5	116	9.3	無	無～微	無～微	中上
	納豆小粒	11. 2	114	11.9	1387	少	多～甚	23.7	100	9.2	無	無～微	無～微	中中

(岩手県内における昭59～61の)
26試験事例より

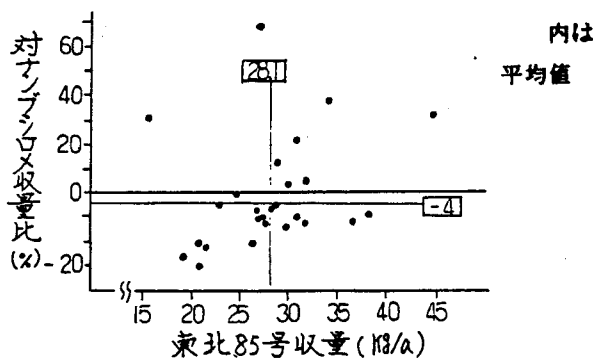


図-1 普通大豆(ナンブシロメ)との比較

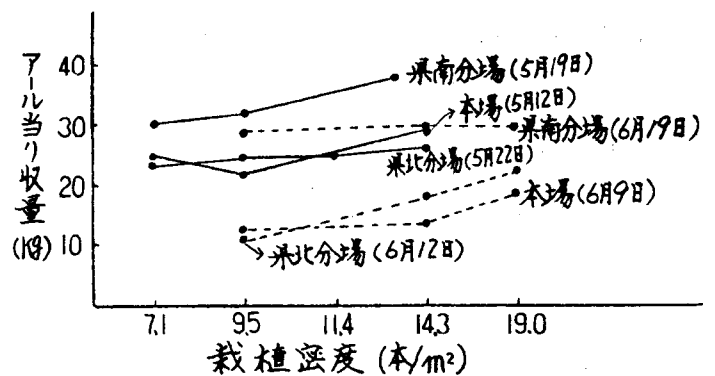


図-2 東北85号の栽植密度と収量(61年)

追記

東北85号は昭和62年5月「コスズ」と命名された。